

地震一口メモ No.173

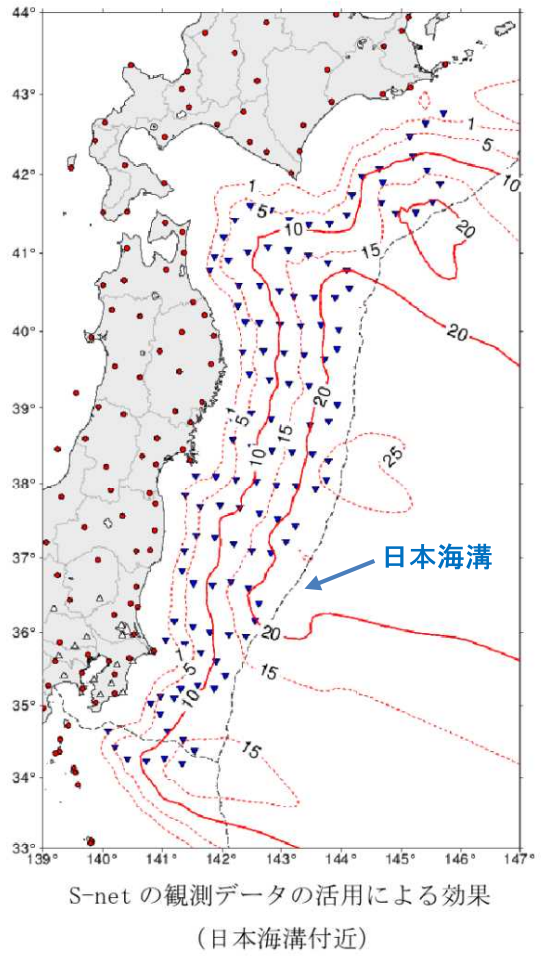
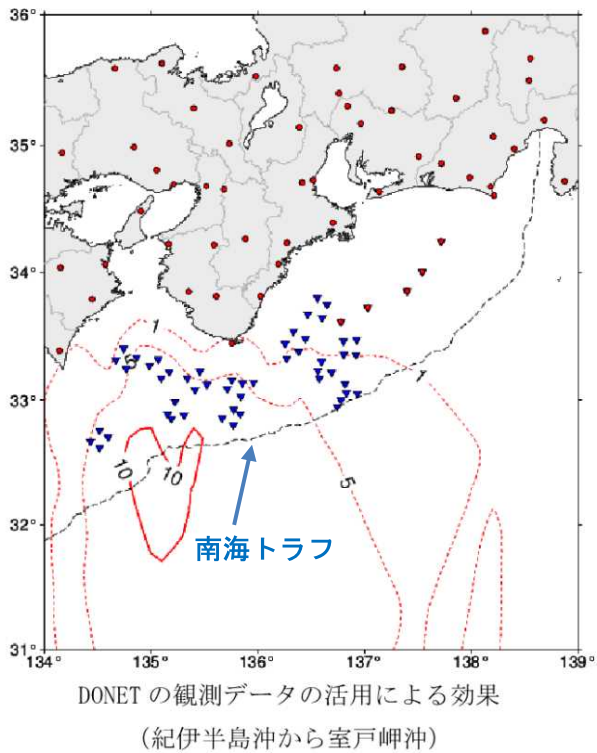
緊急地震速報への海底地震観測データの活用について

気象庁では、緊急地震速報への海底地震計の観測データの活用を 2019 年 6 月 27 日に開始し、海域で発生する地震に対する緊急地震速報の発表の迅速化を図っています。

海底における地震観測は、地震計の設置環境や地盤の特性が陸上とは異なるため、その観測データを適切に活用するための技術が必要となることから、気象庁と国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）は連携して開発を行ってきました。今般、この技術開発が完了し、観測データの活用の準備が整ったことから、防災科研が運用している「地震・津波観測監視システム (DONET)」(既に一部データは活用済み) 及び「日本海溝海底地震津波観測網 (S-net)」(日本海溝より陸側の観測点) の観測データを新たに活用した緊急地震速報の発表を開始しました。

これにより、下図のように、緊急地震速報（警報）の発表が、日本海溝付近で発生する地震については最大で 25 秒程度、紀伊半島沖から室戸岬沖で発生する地震については最大 10 秒程度早まることが期待されます。

気象庁では今後も、緊急地震速報の改善に取り組んで参ります。



各図中の数字は、各赤線の内側で地震が発生した場合に、緊急地震速報（警報）の発表がどの程度早まるかを計算した理論上の最大値(秒)を示す。

図 DONET 及び S-net の観測データの活用による緊急地震速報（警報）の迅速化
図中の○、▽は観測点を示し、そのうち▼が新たに活用を開始した観測点を示す